

ラジオスターターガイド

新型コロナ感染拡大を受けて、学校に行けない子どもたちやテレワークで家にいる人たちが、ラジオを聴き始めたという話をあちこちで聞きます。「ラジオ番組表」の読者であれば基本的すぎる情報でしょうが、ここではラジオの聴き方やおもしろさをまとめました。このページはコピーしてもOK! PDFも公開するので、身の回りに拡散してラジオ仲間を増やしてみてください!

文/手島伸英(横浜探偵団)

PDF公開URL:<http://www.sansaibooks.co.jp/>



そもそもラジオってなに?

電波を使って音声を届ける放送メディアで、日本では、使用している周波数帯の低い方から、中波放送(AM)、短波放送(SW)、超短波放送(FM)の3種類がある。

テレビから映像を引き算したものと考えるとイメージしやすいが、実際に目を閉じてテレビを聴いてみても、いまいち内容が伝わってこないことが多い。情報伝達の多くを映像に頼っているからだ。その点、ラジオは、音声ですべて。伝えなくてはならない情報は、すべて音声の中に盛り込まれている。たとえば上手なアナウンサーの実況中継は、色彩や空気感、温度にいたるまで、まるでその場にいるかのようだし、音楽番組のDJはこれまでに触れてこなかった楽曲との新鮮な出会いを提供してくれる。

映像が無いということは、ながら聴きに適しているということ。仕事や勉強、家事などをしながらでも、邪魔にならない。もちろん、布団に入って寝落ちしながら聴けるのも、ラジオの醍醐味である。



ラジオって面白いの?

ラジオは、各番組を少人数で制作している。基本はパーソナリティ、ミキサー(技術)、アシスタントディレクター(AD)、ディレクターの4人構成。制作費に余裕がある番組では、ADが複数だったり、放送作家がついたりするが、その一方ですべてをひとりで行うワンマン方式の番組も存在する。番組によっては100人規模のスタッフを抱えるテレビとは雲泥の差だが、その分、スタッフひとりひとりの個性が、自ずとにじみ出てきてしまう。そんな距離の近さが、ラジオの最大の魅力だ。

たとえば、番組で紹介するお店で急に「おひとり様向け」が多くなったのはADのY君が彼女にフラれたからだとか、イケメンがゲストに来るとパーソナリティのテンションが一気に急上昇するとか、だんだん気付くようになってくる。そうなったらしめたもの。「つまんねーな」と突っ込みながら、気付いたときには、もうどっぷりとラジオの沼にハマっているのだ。

どんな番組を聴けば良いの?

最初は手もとのラジオをいじくって、とりあえず地元のラジオ局を聴いてみる。しばらく聴いてみて合わないと思ったら、時間帯やラジオ局を変えてみる。これを何度か繰り返せば、きっと、好みの声や話し方、音楽に出会えるはずだ。「ラジオ番組表」(本誌)があれば、番組名やパーソナリティの名前もチェックできるので、せっかくだから番組情報をチェックしてマーキングしておこう。

ドライブ中などは交通情報を目当てにラジオをつけておき、番組本編をBGM代わりにするといった聴き方でもOKだし、番組内で行われる聴賞を楽しみに、日々応募するのもいい。ラジオを聴く時間が長ければ長いほど、自分好みの番組に出会える可能性もアップする。

それでも、どうしてもいいところ取りしたい人は、必聴ラジオ100(弊社刊)のようなガイドブックを使って、オススメ番組をピンポイントで聴くのもいい。自由に楽しむのがラジオなのだ。

タイムテーブルとにらめっこして、好みの番組を探し出そう。



番組でお便りを読まれるにはどうすれば良い?

ラジオは、番組とリスナーとの距離が近いのが魅力。人気番組はパーソナリティとリスナーとが上手にコミュニケーションを取っており、それが相乗効果を生んで、どんどん人の輪が広がっていくのが特徴だ。番組でお便りを読まれるには、まずその輪の中に勇気を持って飛び込むこと。ラジオの中で行われる会話を他人事せず、「自分だったら」と考えてみる。すると、何かしら言いたいことや聴きたい曲のひとつも出てくるはずだ。それをそのまま書いて送ればいい。

テクニカルな面で言うと、ツイッターやメールの場合は、どうしても同じフォントで横並びになるので、内容の他に、文章の構成、適度に改行が入っているかなど、読みやすさもポイントになる。一方、パーソナリティも人間なので、ハガキやFAXなど手書きのものをもらうと嬉しい。人のぬくもりが伝わるからだ。そして、最終兵器とも言えるのが子どもが手書きしたお便り。この破壊力はMAXである。

どうしたら聴けるの?

ラジオを聴くもっともシンプルな方法は、市販のラジオ受信機を使う方法。安いものは数百円~高いものは数万円まで、そのサイズと用途によって様々なラジオ受信機が存在する。とはいえ、地元のラジオ局を楽しむなら、まずは2,000~3,000円のポケットラジオから始めてみよう。初めてラジオ受信機を買うのであれば、家電量販店などの店舗に足を運んでみることをオススメする。現物を手に取ると、カタログやメーカーのホームページではわからなかった使い勝手が見えてくるし、なにより店員さんに相談できるのが心強い。

電波をそのままラジオ受信機で聴く方法以外にも、有線放送で聴く方法、ケーブルテレビの再送信で聴く方法、radikoで聴く方法、各種オンデマンドサービスで聴く方法などがある。ちなみに、普段はナビとCDでしか使ったことがないというカーオーディオでもラジオは受信できるので、そこから始めてみるのも良いだろう。



ネット通販でも格安で入手可能。

快適受信のテクニック

ラジオを快適に聴けるかどうかは、放送局が送信する電波を確実につかまえられるかどうかにかかっている。理想的なのは屋外に専用アンテナを用意して、それをラジオにつなぐこと。テレビやPCなどの家電製品が出すノイズの影響が少なくなるので、快適度は格段にアップする。

ただ、現実の問題として専用アンテナはハードルが高い。ならば、ラジオ本体を積極的に動かしてみよう。AM受信時は本体を回転させるように、短波やFM受信時はロッドアンテナをしっかりと伸ばして動かそう。それでもダメなら本体を移動させてみればOK。きっとベストポジションが見つかるはずだ。

AMや短波で混信が気になる場合は、混信と反対方向に向けてチューニングをほんの少しだけズラすというテクニックもある。ズラし過ぎると音が変わって聴きにくくなるので、「ほんの少しだけ」というのがポイントだ。



窓際に置くだけで格段にクリアになるはず!

radikoも活用してみよう

ネットでラジオが聴ける「radiko」。スマホの普及とともにユーザーを増やし、あと半年で丸10年を迎える。当初は都市雑音対策としてスタートしたサービスも、民放全103局+NHK+NHKが参加する大所帯となった(2020年4月現在)。

基本サービス(無料)は、地元の放送局について、リアルタイム聴取と1週間分のアーカイブに対応したタイムシフト再生ができる。番組情報が豊富で、放送局のホームページより情報量が多いことも珍しくない。対応する放送局では、今かかっている楽曲名がリアルタイムで表示されるのも便利。番組情報は、基本サービスでも全国の放送局に対応している。

プレミアムサービス(350円/月額・税別)は、地元の放送局に限定されていた聴取サービスのエリア制限を取り払うもの。今まではマニアの楽しみであった遠距離受信が、スマホさえあれば誰でも実現できるように。各地方局に眠る素敵な番組が全国的な脚光を浴びるきっかけにもなった。



過去1週間分が聴ける「タイムフリー」は地元局であればプレミアム会員でなくても利用可。

ラジオはどうやって応援すればいい?

好みの番組を見つけて、とにかく聴き続けること。番組単位でも、放送局単位でも、ラジオ全体でも構わないので、ラジオが生活の一部になったら素晴らしい。そして、できれば「聴いているよ」と伝えて欲しいのだ。

最もシンプルな方法は、番組宛にお便りを送ること。リスナープレゼントに応募するだけでもいい。番組イベントや公開放送に積極的に参加するのもいい。リスナーの存在をリアルに感じられるだけで、パーソナリティ

radiko以外のサービスもある!?

インターネットでラジオが聴けるサービスとしてはradikoが有名だが、それ以外にも、NHKが運営する「らじる★らじる」やTBSと博報堂DYメディアパートナーズが立ち上げた「ラジオクラウド」、JFN加盟局の「WIZ RADIO」といったサービスがある。

PCとスマホに対応し、リアルタイム受信+1週間分のアーカイブがウリのradikoに対して、ラジオクラウドは利用環境をスマホに限定。リアルタイム受信には対応せず、ラジオ番組のアーカイブ+オリジナルコンテンツを提供する。いわば、ポッドキャストの進化版だ。大手放送局だけでなく、渋谷のラジオのようなコミュニティ放送局や目黒FMのようなインターネット放送局が参加しているのも特徴。過去のアーカイブをすべて公開している番組もあるのでチェックしてほしい。

どうやって放送しているの?

ラジオ局の多くは、スタジオがある「演奏所」と、エリアをカバーする上で適切に配置されたアンテナのある「送信所」が対となって放送している。送信所はAMでは標高よりもサービスエリアの中心であることが重視され、FMではサービスエリアの中心であることよりも全体を見渡せることが重視される。また、短波で全国をカバーするラジオNIKKEIの様に、昼夜で変化する電離層の影響を最小限に抑えるため、北海道と千葉に送信所を置くケースもある。

金銭的な面で言うと、ラジオ局の主な収入源は、番組の合間に流れるCMの広告収入だ。少し乱暴な見方をすると、CMが多い番組は勢いがあり、CMが少ない番組はまだまだ伸びしろがあると見ることもできる。広告収入だけではなかなか運営費を賄えないので、イベントを主催したり、不動産投資を行ったりするなど、様々な収入源を模索しているのが現実だ。



東京タワーからは今もTOKYO FM、Inter FM897の電波が送信されている。